

西淀病院誕生70年

侵略戦争の砦から 平和のち・健康を守る砦へ

記念碑設立運動に寄せて

淀川勤労者厚生協会副理事長・全日本民医連副会長 長瀬文雄



長瀬文雄さん

西淀病院は、1947年9月10日、西日本初の民主診療所である西淀川労働会館附属病院として、大阪市西淀川区御幣島3丁目に創設されました。日本国憲法施行の3カ月前です。

戦時体制をよりいっそう推進する目的でつくられたのが、隣組にみられる「大政翼賛会」と「産業報国会」でした。産業報国会は労働組合を解散させ、右翼的な労働組合と一体となって、産業を戦争に全面的に協力させる司令塔の役割を果たしました。

失業と飢餓、疾病のどん底生活

西淀病院が誕生した当時の国民生活は、失業と飢餓、疾病のどん底生活の真つた中でありました。産業は壊滅状態の上、海外からの引揚者、食糧難や失業の蔓延の中、チフス、コレラ、結核等が大流行しました。当時は、また国民皆保険制度はなく、不足する医薬品に加えて診察代、薬代が高く、庶民は病気になることも医者にかけられない状態でした。

そんな時代に、「医療を民衆の手に」と立ち上がったのが、戦前の無産者診療所運動の歴史を引き継ぎ進歩的な医師、医療従事者へ、戦後の民主

化を求める労働運動でした。

西淀川は戦前から「東洋一」といわれる工業地帯で、戦争の匂いが立ち込める1930年代の産業は軍事色一色と化していました。江崎グリコも製紙や航空機産業に進出しています。

産業を戦争に協力させる司令塔

戦時体制をよりいっそう推進する目的でつくられたのが、隣組にみられる「大政翼賛会」と「産業報国会」でした。産業報国会は労働組合を解散させ、右翼的な労働組合と一体となって、産業を戦争に全面的に協力させる司令塔の役割を果たしました。産業報国会西淀川支部会長は江崎グリコ社長(当時)でした。しかし、二十数回に及ぶ大空襲で、敗戦時には西淀川の産業も壊滅的な打撃を受けていました。



スウェーデンストックホルムで行われた、核兵器廃絶のための国際会議に参加する第3代院長の林医師(前列右から3人目)を、病院前で送り出す職員・患者たち(1958年)

した。

「労働者の病院」と週刊誌も報道

関西電力労組、淀川製鋼労組など地域の労働組合が開所を全面的に支援します。阪神電鉄労組はつり看板で西淀病院を知らせました。この模様を開所から9月後の「サンデー毎日」1947年4月20・27日は次のように伝えています。見出しには、「病院もわれらの手で」「大阪に生まれた労働者の西淀病院」とあり、「労働者の健康増進、医療の社会化を目的とし、工場、即家庭を直結、労働者自身が経営していくわれらの病院」ともいいます。日本最初の民主的な労働者の病院が大阪西淀川の工場街の真ん中に生まれたという一節ではまっています。設立の経緯や病院の概要などを述べた「ある民主的な経営方針」2献身的な医療「あまりの大きくなはなが明い感じの病院」など、賞賛の言葉が書き連ねられ、「このわれらの病院の生まれられたことは労働者にとって大きな喜びであり、将来この種の病院が続々と生まれたいことを期待する」と結んでいます。

革新府政のもとで与党議員団長も務めた林嘉彦医師が就任します。林医師は戦前の無産者診療所に加わり戦後、国立石臼荘病院労働組合や全日本医療団体従業員組合を組織。西淀病院に参加したのちは全日本民医連(現在は全日本民医連)の結成に参加されます。西淀病院の基礎が固まっていたころ、こうした素晴らしい医療機関を自分たちの地域にもつくりたいという運動は、燎原の火のように広がり、柏花診療所、姫島診療所など、西淀川区内はもううへうへに診療所、耳鼻科診療所など大阪府下、神戸、尼崎など近県にも次々と民主診療所・病院が建設されていきます。この時期は、「いのちの平等をめざして」1947年9月、西淀川労働会館附属西淀病院の地に誕生」と記され、来年9月に除幕する予定です。

「侵略戦争の砦」を「平和のち・健康を守る砦」として発展させてきた労働者、市民の運動、進歩的医療従事者の共同の歴史の軌跡にぜひ協力してください。(ながせふみお)

旧西淀川労働会館跡への記念碑設立募金 10口2千円。問い合わせ先は06-6476-4501 一般財団法人淀川勤労者厚生協会まで。

先駆的な役割果たしてきた病院

西淀病院は、「民主的な医療従事者の養成機関(関西医療民主化同盟)としても位置付けられていました。西淀病院



西淀病院の『サンデー』毎月20日・27日

洋古書コレクターとしても知られている。本書は、そんな鹿島氏が、コレクターとしての道に懸けた執念と、鹿島さん(さん)をきくという詰め込んだ内容となっている。

よ、古本と古書は違つと言われたりする。ある書誌学者は、もともとの定価よりも安く売られている本を、深い。本書によると、古本、高く売られてい

説明だが、ではなぜ、定価より安くなったか、高くなったか、わかるようになっている。鹿島氏はそのあたり

コレ

ネット古書店主が選ぶ
今週の一冊
坂本卓也

古書が
よと思いたい
子供と
大事
鹿島

葬斂屋春秋

ある送り人の記録

なんとなく悲しい気分
のする秋の黄昏とき、かつ
て同じ会社で一緒に仕事を
していた中島君の電話が
あった。私より六歳年下
超ベテランと言われたこ
ろ、金物店を営む父親が急
逝し、迷った末に、家業を
継ぐために会社を辞めた。
「お願ひがあるんや。市
内の同業者のあるじが脳出
血で急逝してな。八十
一歳でな。ところが嫁はん
も二人の子供も本人も、宗
教に無関心と言うか何もわ
からへん。そやけど、長男

彼と待ち合わせ
かった。
喪主の長男

百二十七、神道風で送る